

研修だより

No.3

「テーマ発問型」授業の可能性～阪本先生道徳授業～

5月22日（月）に、3年2組阪本先生による、道徳の授業が行われました。「考え、議論する道徳」のための「テーマ発問型」の授業の提案でした。授業後の交流では、グループ毎に、これまでの豊成の授業スタイルとの違いやそれぞれのよさ、今後の目指すところなどについて協議しました。

【阪本先生より】

①発問の吟味

教材の内容確認はカットして、大きな発問を軸に考えを深めていく「テーマ発問型」の授業。

②言語活動の充実

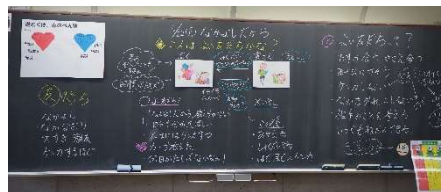
書く内容を絞って、ペアや全体で話す時間を確保。

③板書の構造化

子どもたちの思考の助けとなる横書きの板書。

④学び方の段階的な指導

掲示物や赤と青のハートなど、子どもたちとの共通の思考ツール。



【グループ毎の交流より】

○「テーマ発問型」の授業により、考え議論する時間が十分にあった。

●教材から離れることで、ぶれてしまうことも…。自分の経験だけで考えることになってしまう。

○指導者の予想から離れた時の、補助発問が有効であった。

○発達段階やクラスの実態に応じた発問の吟味が必要である。



【永井指導主事より】

・意欲的に学ぶための工夫がされていた。

・「指導観」を明確に持つことが大切である。児童の実態から、授業を作ることができていた。

・「テーマ発問」→子どもの中から湧いてくるであろう問題を教師が取り上げる。

・事前のアンケートや多様な考えを知る方法として、ICTの活用を。

【校長より】

・「よい友だち」というワードが良かった。3年生の実態に合っており、子どもたちが考えやすい発問になっていた。また、自由に生き生きと発言できる雰囲気を作られていた。

・価値の深まりがある授業を目指したい。

・ICTを活用し、自分の思いを共有するきっかけに。

